



- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 対象読者
 - 2.3. 注意事項
 - 2.4. サンプルコードについて
 - 2.5. 本書の構成
- 3. Web API Maker 概要
 - 3.1. Web API Maker とは
 - 3.2. Web API Maker の機能
 - 3.3. Web API Maker のモジュール構成
- 4. Web API Maker を利用したAPIの作成方法
 - 4.1. 全体の作業の流れ
 - 4.2. 前提条件
 - 4.3. ファクトリクラスの作成
 - 4.4. サービスクラスの作成
 - 4.4.1. サービスクラスの作成<基本>
 - 4.4.2. @Beanについて
 - 4.4.3. セキュアトークンによるトークンチェックを行う
 - 4.4.4. 認可チェックを行う
 - 4.4.5. 返却するステータスコードを指定する
 - 4.4.6. 手動レスポンスを返却する
 - 4.4.7. APIドキュメントを登録する
 - 4.5. 引数・戻り値に指定可能な型
 - 4.6. パッケージの登録
- 5. 作成したAPIの利用について
 - 5.1. 利用方法
 - 5.2. セッション管理
 - 5.3. API仕様を参照する
 - 5.4. Web上からAPI仕様を参照し実行する
- 6. サンプルについて
 - 6.1. サンプルアプリケーションの仕様
 - 6.2. サンプルの資材一覧

変更年月日	変更内容
2015-08-01	初版
2015-12-01	第2版 下記を追加・変更しました。 ■ 「Web API Maker を利用したAPIの作成方法」の「サービスクラスの作成<基本>」にBasic認証に関する説明を追記しました。
2017-08-01	第3版 下記を追加・変更しました。 ■ 「Web API Maker を利用したAPIの作成方法」の「セキュアトークンによるトークンチェックを行う」に設定ファイルに関する説明を追記しました。

本書の目的

本書では intra-mart Accel Platform で提供する Web API Maker を用いたプログラミング方法や注意点等について説明します。

説明範囲は以下の通りです。

- Web API Maker の概要・基本仕様
- Web API Maker を利用したAPIの作成方法
- Web API Maker で作成したAPI利用時の注意点

対象読者

本書は、以下の条件を満たす人を対象としています。

- Web API Maker を用いて intra-mart Accel Platform 上で Web API を提供したい開発者

次の内容を理解していることが必須となります。

- Javaを理解している

注意事項

1. Web API Maker を利用するにあたり、いくつかの制限事項が存在します。制限事項についての詳細は「[リリースノート 制限事項](#)」を参照してください。

サンプルコードについて

本書に掲載されているサンプルコードは可読性を重視しており、性能面や保守性といった観点において必ずしも適切な実装ではありません。サンプルコードを参考に開発する場合は、上記について十分に注意してください。

本書の構成

本書は、以下のような内容で構成されています。

- [Web API Maker 概要](#)
- [Web API Maker を利用したAPIの作成方法](#)
- [作成したAPIの利用について](#)
- [サンプルについて](#)

Web API Maker とは

Web API とは HTTPベースでデータをやりとりするための API です。

Web API Maker を利用することで intra-mart Accel Platform 上でWebサービスをシンプルに実現することができます。

Web API Maker の機能

Web API Maker では以下の機能を提供します。

- Java言語のクラス・メソッドに対してアノテーションを付与することにより、対象のクラスをWebサービス・プロバイダとして利用可能とする機能
- 上記のWebサービス・プロバイダにWebサービスとしての仕様をJSON形式で出力する機能

Web API Maker のモジュール構成

Web API Maker は以下のモジュール構成になります。

- Web API Maker
- Web API Maker OAuth認証モジュール
 - Web API Maker でOAuth2による認証を行う場合に必要となります。

項目

- 全体の作業の流れ
- 前提条件
- ファクトリクラスの作成
- サービスクラスの作成
 - サービスクラスの作成<基本>
 - @Beanについて
 - セキュアトークンによるトークンチェックを行う
 - 認可チェックを行う
 - 返却するステータスコードを指定する
 - 手動レスポンスを返却する
 - APIドキュメントを登録する
- 引数・戻り値に指定可能な型
- パッケージの登録

全体の作業の流れ

Web API Maker を利用したAPIの作成は以下の流れで行います。

- ファクトリクラスの作成
ファクトリクラスおよびサービスクラスのインスタンスを生成するクラスを作成します。
- サービスクラスの作成
Webサービス・プロバイダとしてのインタフェースの決定、任意の実装を実装します。
- パッケージの登録
作成したファクトリクラスを列挙します。

前提条件

Web API Maker を利用しAPIを作成するには以下の前提条件があります。

- 提供するAPIのファクトリクラス、サービスクラス、サービスクラスのインタフェースに含まれるモデルはすべてpublicである必要があります。
- モデルを利用した場合に有効となるプロパティは、対となる getter, setter があるメンバのみです。
- モデルは引数無しのコンストラクタを提供する必要があります。
- データの受け渡しにXMLを利用する場合でインタフェースにモデルが含まれる場合、そのモデルクラスに@XmlRootElementアノテーションを付与する必要があります。
- モデルのプロパティにMapがあり、そのvalueの型がObjectである場合は、値に格納される値が形式毎に異なる可能性があります。
 - データの受け渡しにJSONを利用する場合は Boolean, BigDecimal, String です。
 - データの受け渡しにXMLを利用する場合は String のみです。



注意

データの受け渡しに関しては、[利用方法](#) を参照してください。

ファクトリクラスの作成

ファクトリクラス、および、サービスクラスのインスタンス生成を行うファクトリクラスを作成します。

ファクトリクラスでは以下の **サービスプロバイダアノテーション** を利用します。

Web API Maker ではサービスクラスに付与されているアノテーションを元にWebサービス・プロバイダとしての仕様が決定します。

仕様の決定はファクトリクラスの **@ProvideService** が付与されているメソッドの戻り値のクラスに付与されているアノテーションにて決定します。

サービスプロバイダアノテーションの種類

@WebAPIMaker	Web API Maker機能を利用することを意味するアノテーションです。 ファクトリクラスのクラスに付与します。
@ProvideFactory	ファクトリクラスのインスタンスの取得元であることを意味するアノテーションです。 ファクトリクラスのファクトリインスタンス取得メソッドに付与します。 付与されたメソッドは一度のみ実行され、ファクトリクラスのインスタンスは Web API Maker 内部でキャッシュされます。
@ProvideService	サービスクラスのインスタンスの取得元であることを意味するアノテーションです。 ファクトリクラスのサービスインスタンス取得メソッドに付与します。 このアノテーションを付与されたメソッドは提供するWebサービス・プロバイダを実行する度に呼び出されます。 メソッドを作りこむことでサービスクラスのインスタンスのライフサイクルを管理することが可能です。

ファクトリクラスの実装例は以下の通りです。

```
package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.ProvideFactory;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.ProvideService;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.WebAPIMaker;

@WebAPIMaker
public class PetServiceFactory {

    @ProvideFactory
    public static PetServiceFactory getFactory() {
        return new PetServiceFactory();
    }

    @ProvideService
    public PetService getService() {
        return new PetService();
    }
}
```

サービスクラスの作成

サービスクラスでは、アノテーションによるWebサービス・プロバイダとしてのインタフェースの決定、任意の処理を実装します。
提供したいWebサービスをメソッドとして記述します。
ここではサービスクラスの作成方法と各アノテーションに関して説明します。

サービスクラスの作成＜基本＞

サービスクラスは以下の手順で作成します。

1. 認証方式を決定して、対応する **認証アノテーション** をサービスクラスに付与します。
認証アノテーションは、API実行時の認証方式を指定するアノテーション群です。

認証アノテーション概要

@IMAuthentication	Cookieを利用したアクセスを行う場合に付与するアノテーション。 特別な認証処理を行わず、Cookieに紐づくセッションの認証状態でアクセスします。
@BasicAuthentication	Basic認証による認証を行う場合に付与するアノテーション。 Basic認証を利用する場合のエンドポイントは、 /basic + 後述の @Path のvalueの値です。 /basic の文字列はアノテーションの属性で変更する事が可能です。

@OAuth

OAuth2による認証を行う場合に付与するアノテーション。

OAuth認証を利用する場合のエンドポイントは、**/oauth** + 後述の **@Path** のvalue値です。

/oauth の文字列はアノテーションの属性で変更する事が可能です。

別途scopeの定義を行う必要があります。

**コラム**

intra-mart Accel Platform のOAuth認証については、「[OAuth認証モジュール仕様書](#)」を参照してください。OAuthのscope定義については「[設定ファイルリファレンス](#)」-「[クライアントのアクセス範囲設定](#)」を参照してください。

**コラム**

Basic認証では、以下のような環境で認証時にテナントを指定することができます。

- バーチャルテナントによる複数テナントを利用して、リクエスト情報を利用したテナント自動解決機能を利用していない環境

上記環境では、認証時にユーザコードとして「テナントID\ユーザコード」を指定すると、指定したテナントに対して認証を行います。

ユーザコードとしてユーザコードのみを指定すると、デフォルトテナントに対して認証を行います。

2. 各メソッドにアクセスするURLを決め、**パスアノテーション** をメソッドに付与します。

パスアノテーションはリクエストを送る際にURLにバインドするパスを指定するアノテーションです。

パスアノテーション概要**@Path**

/xxx 形式でパスを指定します。

パスに **{xxx}** 形式を含めることでxxxの値をパラメータとして利用可能です。

3. 受け付ける HTTP メソッドに対応する **HTTPメソッドアノテーション** をメソッドに付与します。

パスアノテーションを付与したメソッドにて許可するHTTPメソッドを指定します。

指定するアノテーションによってメソッドで利用可能な引数の型が異なります。詳しくは後述の [引数・戻り値に指定可能な型](#) を参照してください。

パスアノテーションを付与したメソッドには1つ以上付与する必要があります。

HTTPメソッドアノテーション概要**@GET**

GETメソッドを受け付けます。

このアノテーションを付与した場合、エンティティボディを利用するパラメータは利用できません。

@PUT

PUTメソッドを受け付けます。

@POST

POSTメソッドを受け付けます。

@DELETE

DELETEメソッドを受け付けます。

このアノテーションを付与した場合、エンティティボディを利用するパラメータは利用できません。

4. メソッドに引数がある場合、値をどのように受け取るかに対応する **パラメータアノテーション** をメソッドに付与します。

HTTPメソッドやパラメータアノテーションごとに受け取り可能な型が異なります。詳しくは後述の [引数・戻り値に指定可能な型](#) を参照してください。

パラメータアノテーション概要**@Parameter**

クエリパラメータまたはフォームパラメータ（マルチパート含む）として引数情報を受け付けます。

パラメータ名を指定する必要があります。メソッド内で同一のパラメータ名を利用できません。

@Header

リクエストヘッダの値を引数情報として受け付けます。

パラメータ名を指定する必要があります。メソッド内で同一のパラメータ名を利用できません。

@Variable	パラメータの値を引数情報として受け付けます。 @Path アノテーションに指定したパス値にパラメータの形式を含める必要があります。 パラメータ名を指定する必要があります。メソッド内で同一のパラメータ名を利用できません。
@Body	エンティティボディの内容を引数情報として受け付けます。
@Bean	上記のパラメータを一括して1つのBeanとして受け取るアノテーション @Beanが指定された型を持つメンバにパラメータアノテーションが付与されている場合、それらをバインドした状態のBeanが利用できます。 詳細は後述の @Beanについて を参照してください。
アノテーションなし	各引数にnullまたは初期値（プリミティブbooleanだとfalse）が必ずわたります。 HttpServletRequestおよびHttpServletResponseを指定した場合、リクエスト中のそれらのインスタンスがバインドされるため、主にリクエストやレスポンスを直接参照したい場合に利用します。
@Required	実行するメソッドに渡す引数の値が必須であることを表すアノテーションです。 上記のアノテーションと組み合わせて利用します。

サービスクラスの実装例は以下の通りです。

```

package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Body;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.DELETE;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.GET;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.IMAuthentication;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.POST;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.PUT;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Path;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Required;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Variable;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.model.Pet;

@IMAuthentication
public class PetService {

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @DELETE
    public void delete(@Required @Variable(name = "id") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // delete
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @GET
    public Pet get(@Required @Variable(name = "id") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet pet : ConstantData.PETS) {
            if (pet.getId() == id) {
                return pet;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pets")
    @POST
    public void register(@Required @Body final Pet pet) {
        // register
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @PUT
    public void update(@Required @Variable(name = "id") final int id, @Required @Body final Pet pet) throws
NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // update
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }
}

```



注意

サービスクラスはインタフェースでもクラスでも動作します。

@Beanについて

@Beanを利用することで、複数のパラメータを1つのBeanでまとめて受け取ることができます。

@Beanを付与された引数のクラスが持つメンバのSetterメソッドに付与されているアノテーションによりメンバの値をリクエストにバインドします。

@Beanを付与するクラスは以下を満たす必要があります。

- publicなクラスである
- publicな引数なしのコンストラクタが存在する

@Beanに付与されたメソッドが以下を満たす場合1つのメンバとして扱われます。

- 対となるgetter, setterが存在する
 - メソッド名がgetXxx(booleanの場合に限りisXxx)である引数なしでかつ戻り値を持つメソッドが存在する
 - メソッド名がsetXxxである引数が1つであり、戻り値が無いメソッドが存在する
 - getterの引数の型、戻り値の型が同一である
- staticではない
- publicである
- setterメソッドにパラメータアノテーションが付与されている（ただし、@Beanは利用不可です）

実装例は以下の通りです。

```

package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Bean;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Body;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.IMAuthentication;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.PUT;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Path;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Required;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Variable;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta.PetShop;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta.PetTag;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.model.Pet;

@IMAuthentication
public class PetService {

    public static class BeanClass {

        public int id;

        public Pet pet;

        public int getId() {
            return id;
        }

        public Pet getPet() {
            return pet;
        }

        @Required
        @Variable(name = "id")
        public void setId(final int id) {
            this.id = id;
        }

        @Required
        @Body
        public void setPet(final Pet pet) {
            this.pet = pet;
        }

    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @PUT
    public void update(@Bean final BeanClass bean) throws NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == bean.id) {
                // update
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }
}

```

セキュアトークンによるトークンチェックを行う

intra-mart Accel Platform ではセキュアトークンを利用することにより、生成されるトークンに対してサーバ側でトークンチェック処理を行い、CSRF対策を行うことができます。

セキュアチェックアノテーションを利用することで、Web API実行前にセキュアトークンによるトークンチェックを行うかどうかを指定することができます。

セキュアチェックアノテーション概要

@Secured

Web API実行前にセキュアトークンによるトークンチェックを行います。

このアノテーションはメソッドに付与可能です。

トークンの発行は [SecureTokenManager](#) で行います。

トークンの発行とWeb APIへのリクエストは同一のセッション内で行う必要があります。

OAuthを利用したWeb APIの場合、このアノテーションは無視されます。

このアノテーションを付与されたWeb APIを実行する場合、クライアントはリクエストヘッダ **X-Intramart-Secure-Token** にトークンを含める必要があります。

トークンチェックにより、トークンが妥当ではない場合、HTTPステータスコード403が返却されます。

実装例は以下の通りです。

```

package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Body;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.DELETE;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.GET;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.IMAuthentication;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.POST;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.PUT;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Path;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Required;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Secured;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Variable;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.model.Pet;

@IMAuthentication
public class PetService {

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @DELETE
    @Secured
    public void delete(@Required @Variable(name = "id") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // delete
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @GET
    @Secured
    public Pet get(@Required @Variable(name = "id") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet pet : ConstantData.PETS) {
            if (pet.getId() == id) {
                return pet;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pets")
    @POST
    @Secured
    public void register(@Required @Body final Pet pet) {
        // register
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @PUT
    @Secured
    public void update(@Required @Variable(name = "id") final int id, @Required @Body final Pet pet) throws
    NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // update
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }
}

```



コラム

2017 Summer(Quadra)から、設定ファイルによりセキュアトークンチェックを無効化できるようになりました。
 設定に関しては、「[設定ファイルリファレンス](#)」-「[Web API Makerセキュアトークンフィルタ設定](#)」を参照してください。

認可アノテーションを利用することで、Web API 実行前にIM-Authzによる認可チェックを行うことができます。

認可アノテーション概要

@Authz

Web API 実行前にIM-Authzによって、指定した認可リソース（または認可マップ）にて認可判断を行います。

予め、認可リソースを準備する必要があります。

このアノテーションはクラスまたはメソッドに付与可能です。

クラスに付与した場合、すべてのメソッドに対して認可が有効です。クラス、メソッド両方に付与されている場合、メソッドの指定が優先されます。

認可によりWeb APIの実行する権限がないと判断された場合、HTTPステータスコード401または403が返却されます。

未認証の場合に401、認証された状態で権限がない場合は403が返却されます。

実装例は以下の通りです。

```

package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.authz.annotation.Authz;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Body;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.DELETE;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.GET;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.IMAuthentication;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.POST;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.PUT;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Path;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Required;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Variable;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.model.Pet;

@IMAuthentication
@Authz(uri = "service://sample/pet-shop", action = "execute")
public class PetService {

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @DELETE
    public void delete(@Required @Variable(name = "id") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // delete
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @GET
    public Pet get(@Required @Variable(name = "id") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet pet : ConstantData.PETS) {
            if (pet.getId() == id) {
                return pet;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pets")
    @POST
    public void register(@Required @Body final Pet pet) {
        // register
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @PUT
    public void update(@Required @Variable(name = "id") final int id, @Required @Body final Pet pet) throws
    NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // update
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }
}

```

コラム

認可 については「認可仕様書」を参照してください。

返却するステータスコードを指定する

Web API Maker では、処理が正常に終了した場合はステータスコード **200** が返却され、例外が投げられ処理が終了した場合はステータスコード **500** が返却されます。

@Response を付与することで HTTP のレスポンスでクライアントに返却するステータスコードを指定することができます。

HTTPレスポンスアノテーション概要

@Response

このアノテーションはサービスクラスのメソッド、またはExceptionクラスに付与が可能です。
このアノテーションを付与する事により、Web API Maker が指定のレスポンスを返却します。
ただし、セキュアチェック、認証、認可チェック等によるエラー発生時はその限りではありません。

以下は Exception クラスに付与した例です。

```
package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Response;

@Response(code = 404)
public class NotFoundException extends Exception {

    public NotFoundException(final String message) {
        super(message);
    }

}
```



注意

@Responseを指定しない場合にレスポンスされる HTTP ステータスについては [利用方法](#) を参照してください。

手動レスポンスを返却する

Web API Maker では、HTTP のレスポンスとして、エラーの有無とAPIの戻り値情報を書き込みます。

@PreventWritingResponse を付与する事により、Web API Maker 側からレスポンスの書き込みが行われません。

手動レスポンスアノテーション概要

@PreventWritingResponse

このアノテーションはメソッドに付与が可能です。
このアノテーションを付与する事により、Web API Maker 側からレスポンスの書き込みを行いません。
ただし、セキュアチェック、認証、認可チェック等によるエラー発生時は書き込みが発生します
APIの引数に HttpServletResponse (パラメータアノテーション無し) を指定する事で
HttpServletResponse を取得可能なので、そのレスポンスを利用して任意のレスポンスを返す事が可能です。

実装例は以下の通りです。

```
package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import java.io.IOException;

import javax.servlet.http.HttpServletResponse;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.GET;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.IMAuthentication;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Path;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.PreventWritingResponse;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta.PetShop;

@IMAuthentication
public class PetService {

    @Path("/sample/pet-shop/redirect")
    @GET
    @PreventWritingResponse
    public void redirect(final HttpServletResponse response) throws IOException {
        response.sendRedirect("/sample/pet-shop");
    }

}
```

APIドキュメントを登録する

APIドキュメント（Swagger specification）出力用の **APIドキュメントアノテーション** を利用することで、APIドキュメントの出力を行うことができます。

APIドキュメントアノテーションは、主にAPIドキュメントでの各メソッドのカテゴリ化に利用します。

APIドキュメントを出力するためには、アノテーション自体を作成し付与する必要があります。

各項目にメッセージコードを指定することで、国際化対応ができます。

サービスクラスに付与するアノテーションの実装例は以下の通りです。

```
package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta;

@Retention(RetentionPolicy.RUNTIME)
@Category(value = "petshop", name = "ペットショップ", description = "ペットショップAPIです", version = "1.0.0")
public @interface PetShop {

}
```

サービスクラスのメソッドに付与するアノテーションの実装例は以下の通りです。

```
package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta;

@Retention(RetentionPolicy.RUNTIME)
@Tag(name = "tag", description = "CAP.Z.IWP.WEBAPIMAKER.SAMPLE.PETSHOP.CATEGORY.DESCRPTION") //メッセージコードを指定することで国際化できます
public @interface PetTag {

}
```

作成したアノテーションの利用し、APIドキュメントを登録する例は以下の通りです。

```

package jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service;

import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Body;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.DELETE;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.GET;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.IMAuthentication;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.POST;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.PUT;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Path;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Required;
import jp.co.intra_mart.foundation.web_api_maker.annotation.Variable;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta.PetShop;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.meta.PetTag;
import jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.model.Pet;

@IMAuthentication
@PetShop
public class PetService {

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @DELETE(summary = "ペット情報を削除します。", description = "ペット情報を削除します。")
    @PetTag
    public void delete(@Required @Variable(name = "id", description = "ペットID") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // delete
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @GET(summary = "ペット情報を取得します。", description = "ペット情報を取得します。")
    @PetTag
    public Pet get(@Required @Variable(name = "id", description = "ペットID") final int id) throws NotFoundException {
        for (final Pet pet : ConstantData.PETS) {
            if (pet.getId() == id) {
                return pet;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pets")
    @POST(summary = "ペット情報を登録します。", description = "ペット情報を登録します。")
    @PetTag
    public void register(@Required @Body final Pet pet) {
        // register
    }

    @Path("/sample/pet-shop/pet/{id}")
    @PUT(summary = "ペット情報を更新します。", description = "ペット情報を更新します。")
    @PetTag
    public void update(@Required @Variable(name = "id", description = "ペットID") final int id, @Required @Body(description = "ペット情報")
        final Pet pet) throws NotFoundException {
        for (final Pet p : ConstantData.PETS) {
            if (p.getId() == id) {
                // update
                return;
            }
        }
        throw new NotFoundException();
    }
}

```



注意

APIドキュメントの参照方法は [API仕様を参照する](#) を参照してください。

Web API Maker ではHTTPメソッドやパラメータアノテーションごとに受け取り可能な型が異なります。
引数・戻り値に指定可能な型は以下の通りです。

引数・戻り値に指定可能な型（パラメータアノテーション別）

型	@Parameter	@Header	@Variable	@Body	なし	戻り値	備考
void						○	
byte[]	○	○	○		○	○	数値変換されず、バイナリを扱います。
char[]	○	○	○		○	○	String#toCharArray() と等価。
InputStream	△ ※1	×	×	○	null	×	@Bodyに利用する場合Swagger spec出力に非対応
InputStream[]	△ ※1	×	×	×	null	×	Swagger spec出力に非対応
AttachmentFile	△ ※1	×	×	×	null	×	
AttachmentFile[]	△ ※1	×	×	×	null	×	Swagger spec出力に非対応
boolean	○	○	○		false	○	※2
Boolean	○	○	○		null	○	※2
byte	○	○	○		0	○	※2
Byte	○	○	○		null	○	※2
char	○	○	○		0	○	※2
Character	○	○	○		null	○	※2
short	○	○	○		0	○	※2
Short	○	○	○		null	○	※2
integer	○	○	○		0	○	※2
Integer	○	○	○		null	○	※2
long	○	○	○		0	○	※2
Long	○	○	○		null	○	※2
float	○	○	○		0	○	※2
Float	○	○	○		null	○	※2
double	○	○	○		0	○	※2
Double	○	○	○		null	○	※2
CharSequence	○	○	○		null	○	※2
Calendar	○	○	○		null	○	※2
Date	○	○	○		null	○	※2
Locale	○	○	○		null	○	※2
TimeZone	○	○	○		null	○	※2
URI	○	○	○		null	○	※2
URL	○	○	○		null	○	※2
UUID	○	○	○		null	○	※2
*[] ※3	○	○	×		null	○	
List<*> ※3	○	○	×		null	○	

型	@Parameter	@Header	@Variable	@Body	なし	戻り値	備考
Set<*> ※3	○	○	×		null	○	
ServletRequest	×	×	×	×	request	×	
HttpServletRequest	×	×	×	×	request	×	
ServletResponse	×	×	×	×	response	×	
HttpServletResponse	×	×	×	×	response	×	
(その他)	△ ※1			○	null	○	@Parameterに利用する場合Swagger spec出力に非対応

※1 マルチパートのみ指定可

※3 *[], List<*>, Set<*> それぞれの * は※2に示した型に限る



注意

Swagger spec出力に関しては [Web上からAPI仕様を参照し実行する](#) を参照してください。



注意

利用できない型を指定した場合、intra-mart Accel Platform の起動時に例外が出力されます。

パッケージの登録

クラスパスに **@WebAPIMaker** が付与されたファクトリクラスのパッケージを列挙したファイルを配置します。
複数ある場合は複数行にわけて書き込みます。

例として intra-mart e Builder for Accel Platform を利用する場合は以下のようにファイルを作成してください。

- src/main/resources/META-INF/im_web_api_maker/packages

```
jp.co.intra_mart.sample.web_api_maker.pet_shop.service
```

Web API Maker を利用したAPIの作成手順は以上です。

項目

- [利用方法](#)
- [セッション管理](#)
- [API仕様を参照する](#)
- [Web上からAPI仕様を参照し実行する](#)

利用方法

@Path で指定した URL にアクセスすると REST-API が実行可能です。

Web API Maker では、データの受け渡しには標準でJSON、XMLの2種類のフォーマットに対応しています。

クライアントからのデータ送信時に、ひとまとまりのオブジェクト情報を送信する際は、オブジェクトを各フォーマットでリクエストボディに含める事が可能です。

サーバからの戻り値も、このフォーマットです。

利用するフォーマットはリクエストヘッダの値を利用して決定します。

- リクエストヘッダ **Content-Type**
メッセージボディにオブジェクトを含める際に指定します。
JSONの場合は、 **application/json** 、XMLの場合は、 **application/xml** と指定します。
- リクエストヘッダ **Accept**
戻り情報のフォーマットを指定します。
JSONの場合は、 **application/json** 、XMLの場合は、 **application/xml** と指定します。
404などのエラー時は指定した形式となる保証はありません。

戻り値の例は以下の通りです。（application/json場合）

```
{
  "error": false,
  "data": {
    "id": 1,
    "name": "Dog",
    "sold": false,
    "attribute": {
      "breed": "golden"
    }
  }
}
```

```
{
  "error": true,
  "errorMessage": "[E.IWP.WEBAPIMAKER.CONVERTER.10001] JSON文字列からの変換に失敗しました。 json:434343"
}
```



コラム

値がnullであるプロパティはJSON、XML共に出力されません。

また、レスポンスされる HTTP ステータスは、以下の通りです。

レスポンスされる HTTP ステータスの種類

200 OK	Accept ヘッダで指定された MIME タイプで処理結果を返却します。
400 Bad Request	リクエストの内容が不正です。 Content-Type が application/json だが JSON 文字列でない 等が考えられます。
401 Unauthorized	未認証状態で、認可が通りません。
403 Forbidden	認証済み状態ですが、認可が通りません。
404 Not Found	URL が定義されていません。

405 Method Not Allowed	そのメソッドではアクセスできません。
406 Not Acceptable	Accept ヘッダに指定されているタイプが全部サポートしておらず、レスポンスを返すことができません。
415 Unsupported Media Type	Content-Type ヘッダに指定されているタイプがサポートしておらず、リクエストを読むことができません。
500 Internal Server Error	内部サーバエラーです。

セッション管理

Web API Maker では、リクエストヘッダ **X-Intramart-Session** を指定することによりセッション管理を行えます。

X-Intramart-Sessionには、**keep** , **once** , **never** の3つの値が利用できます。

ヘッダを省略した場合は keep を指定した場合の挙動と同じです。

指定した値による挙動は認証方式によって以下のように異なります。

IMAuthenticationの場合

X-Intramart-Session 動作	
keep	セッション管理を何も行いません。
once	セッション管理を何も行いません。
never	Web API実行後にログイン状態である場合、ログアウトを行います。

BasicAuthenticationの場合

X-Intramart-Session 動作	
keep	認証済みでない場合は、Web API実行前にログインを行います。実行後は何も行いません。
once	認証済みでない場合は、Web API実行前にログインを行います。Web API実行前に未認証であった場合はログアウトを行います。
never	認証済みでない場合は、Web API実行前にログインを行います。Web API実行後にログイン状態である場合、ログアウトを行います。

OAuthの場合

X-Intramart-Session 動作	
keep	認証済みでない場合は、Web API実行前にログインを行います。実行後は何も行いません。
once	認証済みでない場合は、Web API実行前にログインを行います。Web API実行前に未認証であった場合はログアウトを行います。
never	認証済みでない場合は、Web API実行前にログインを行います。Web API実行前に未認証であった場合はログアウトを行います。

API仕様を参照する

以下のURLにてAPIの仕様を返すJSONを取得可能です。

- [http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/api-docs/\\${api-category}](http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/api-docs/${api-category})

`${api-category}` はサービスクラスで指定している **@Category** アノテーションのvalue値です。



注意

上記のAPI仕様のURLは認可によって閲覧を制限することが可能です。

リソース名は「Swagger specification」です。

認可については「[認可仕様書](#)」を参照してください。

**注意**

API仕様出力を行えるサービスクラスは、**@IMAuthentication** が付与されている物のみです。

@IMAuthentication が付与されておらず、@OAuth または @BasicAuthentication が付与されているサービスクラスの仕様は出力できません。

Web上からAPI仕様を参照し実行する

以下のURLにてswagger uiを表示できます。

- http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/swagger_ui/

ページ上部のテキストボックスにてAPI仕様のURL ([http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/api-docs/\\${api-category}](http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/api-docs/${api-category})) を入力することで仕様の表示、実行が可能です。

swagger **Explore**

ペットショップ

ペットショップAPIです。

pet: ペットに関するAPIです。 Show/Hide | List Operations | Expand Operations

DELETE	/sample/pet-shop/pet/{id}	ペット情報を削除します。
GET	/sample/pet-shop/pet/{id}	ペット情報を取得します。
PUT	/sample/pet-shop/pet/{id}	ペット情報を更新します。
PUT	/sample/pet-shop/pet/{id}/photo	ペット画像を更新します。
GET	/sample/pet-shop/pets	すべてのペット情報を削除します。
POST	/sample/pet-shop/pets	ペット情報を登録します。

[BASE URL: /imart , API VERSION: 1.0.]

項目

- サンプルアプリケーションの仕様
- サンプルの資材一覧

Web API Maker には簡単なWeb APIのサンプルが含まれています。

デプロイするには IM-Juggling で Web API Maker を含め、なおかつサンプルを含める設定で war を作成してください。

warのデプロイ後、テナント環境セットアップ、サンプルデータセットアップすることで本サンプルを利用することができます。

サンプルアプリケーションの仕様

以下のURLにてAPIの仕様を返すJSONを取得可能です。

- http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/api-docs/petshop

また、以下のURLにてswagger uiを表示できます。

ページ上部のテキストボックスにてAPI仕様のURLを入力することで仕様が表示可能です。

- http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/swagger_ui/

The screenshot shows the Swagger UI for the 'ペットショップ' (Pet Shop) API. The interface is in Japanese. At the top, there's a green header with the Swagger logo and a search bar containing 'http://localhost:8080/imart/api-docs/petshop?'. Below the header, the title 'ペットショップ' is displayed, followed by the description 'ペットショップAPIです。'. A section titled 'pet: ペットに関するAPIです。' lists the API endpoints. Each endpoint is shown with its method (DELETE, GET, PUT, POST) and a description. The endpoints are: DELETE /sample/pet-shop/pet/{id} (Delete pet information), GET /sample/pet-shop/pet/{id} (Get pet information), PUT /sample/pet-shop/pet/{id} (Update pet information), PUT /sample/pet-shop/pet/{id}/photo (Update pet image), GET /sample/pet-shop/pets (Delete all pet information), and POST /sample/pet-shop/pets (Register pet information). At the bottom, it shows the base URL as '/imart' and the API version as '1.0.'.

サンプルの資材一覧

サンプルのjavaソースは 最新情報ダウンロードページ(iAP) からダウンロードできます。

<http://www.intra-mart.jp/download/product/iap/index.html>

